

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	福岡県久留米市高良内町3919番地5		
自己評価作成日	H27年12月1日	評価結果確定日	平成28年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「コスモピア高良内」は市の公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます、季節の花々を眺めゆったりと過ごす事ができます、桜の季節は公園に花見の方が多く訪れます

利用者は、ホームで生活されるなかで、近隣で提携医のつむら診療所の津村先生との連携により健康面では安心して過ごす事ができます、開設して10年を過ぎ勤続年数も長い経験豊富な介護スタッフが多く「施設」ではなく家庭的な雰囲気でも過ごして頂けるよう個別支援の視点で介護を行っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コスモピア高良内は、開設から今年で11年を迎える2ユニット型グループホームであり、各ユニットは独立した棟で、駐車場を挟んで個別に運営されていて、三角屋根の建物の天井も高く家庭的な雰囲気である。すぐ横に公園があり、施設の庭のように気軽に利用もできる。職員も定着率が高く、長く勤める職員も多い。2年前から久留米市のよかよか介護ボランティアに登録を始め、毎週4名のボランティアを受け入れており、傾聴ボランティアやレク、調理など一緒に時間を過ごしてもらう。提携医が非常に協力的で親身に診療してくれており、早めの対応で健康維持にもつながり、職員や家族の相談も出来るほどで事業所との信頼関係も厚い。昨年から外出も増やし、個別ケアでも支援しており、誕生月には個別支援として、その方の要望を叶えるサービスを行っている。社会資源の活用も積極的に今後も益々の発展、情報発信が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私たちの使命」を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で唱和し仕事に取り組む姿勢を日々確認している	毎朝、ユニットごとの交代担当で、朝礼を行い、運営理念と方針を唱和している。「職場の教養」という毎月発行の副読書も活用し、毎日の輪読、感想発表、その後職員全員での握手で、活力的な朝礼の実践がしっかり根付き、元気な挨拶にもつながっている。理念の実践を振り返るアンケートを今年実施し各人で振り返る機会をもった。浸透も進んできており、理念を元にした指導も行っている。個別の理解のため昨年はユニット単独での理念も意見を元に作成した。	より一層、職員一人一人の理念の浸透と実践につなげていくために、継続的な振り返りの機会や、統一された実践への取り組みがなされていくことにも期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	久留米市介護福祉サービス事業者協議会主催のよかよか介護ボランティアの方々に週3日ほど来訪してもらい、地域の情報などを頂いている	日常的にも地域の方の立ち寄り、差し入れもらうことも。昨年からボランティア受け入れは徐々に広がり週3日、入れ替わりで4名ほどが来られる。近隣特養の夏祭りには入居者も一緒に参加。敷地が公園への近道になるため、開放して挨拶を交わすことも多い。中学生の職場体験の受け入れも毎年。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の民生委員さん、地域のボランティアの方に事業所の取り組みをお知らせしている隣接する施設と運営推進会議の相互参加を行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の案内を全利用者家族に行って出席を呼びかけている、2ヶ月に一度の開催時、運営報告を行っている、受け入れているよかよか介護ボランティアの方にも出席してもらい客観的な意見を聴いてサービス向上に活かしている	会議には、市職員、地域包括、ボランティアスタッフ、ご家族などが参加され、スタッフルームで開き、入居者が参加することもある。家族は全員に案内、1、2名が参加される。ボランティアの立場からも客観的な意見をもらい、レクの時間などについて見直しにつながった。ヒヤリハット報告、改善報告なども行う。議事録作成しているが、市にのみ報告している。近くの地域密着特養とは、相互に運営推進会議参加、情報共有をしている。	地域の方の参加が少ないので、町内会長や民生委員など、地域の方への呼びかけ、参加が促されることが期待される。また、防災訓練や敬老会など、行事との同日開催で、日頃の取り組みをみてもらってはどうか。また、議事録が広く家族や関係者に報告されることも望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、疑問点など積極的に出向き相談して協力をうけている	運営推進会議にはほぼ毎回、地域包括と市職員の方は参加されている。入居途中から生活保護受給に切り替わった方もおり、申請に関して保護課と相談をした。身寄りのない方への対応に関して、相談。地域包括からは入居照会の連絡をもらうことも多い。各種の申請時には市の窓口も訪問して相談しながら対応している。空きが出た時などはパンフレットなど持参することもある。担当者も顔なじみになり話しやすい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会でたびたび勉強している、やむを得ない状況がある方についてアセスメントを十分に行い家族と十分に話し合い経過報告を行っている	異食行為のある方がおり、つなぎ服を使用しているが、医師、家族と相談の上、支援記録、毎月の見直しも行い、時間も最小限に抑える努力をしている。現在帰宅願望の強い方もおり、玄関施錠をしているが、不穏時は一緒に付き添って落ち着くまで外出することもある。リスクの高い方は市の見守りネットワークにも登録している。外部研修の参加、伝達、勉強会も行っている。		

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、事業所内で不適切なケアが行われていないかどうか毎月のユニットごとのミーティングで確認している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でとりあげている。日常生活自立支援事業は、実際利用されている方がいる為職員も理解している。家族と相談し、司法書士をよび、成年後見制度利用に一度繋げた方がいるが、本人の理解が得られず利用までは行かなかった	日常生活自立支援事業の活用が2名、成年後見制度の活用が1名おり、入居後に制度の活用に至った方もいる。現在制度利用している方への対応から、職員も一般的な知識を理解している。今年受けた、県の技術向上研修の中で権利擁護に関しても学習し、所内の伝達も行った。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時は、事前に書類を読んで来てもらい契約時疑問点を尋ねている、十分な説明を行っている、改定時は速やかに説明し文書を渡している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		半数以上の家族が面会に来ており、その際に意見を聞くことが多い。意見箱の設置をしているが、利用はなかった。今回の外部評価アンケートでも半数以上が回答され、好意的な意見も多かった。要望がある際は話し合い、改善も行っている。毎月担当者を決めて、個別のお便りを一筆箋で送っている。	月々のレクや行事、食事の内容を知ってもらうために、事業所としてのお便りや広報誌の発行も検討されてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、月1回のミーティング、などで改善点などは話し合う機会がある、又アンケートや自己評価表を記入してもらい、そこに意見を書いてもらい代表との個人面談時に	昨年代表が変わり、個別面談も行い、毎年続ける予定である。職員の自己評価もしている。毎月ミーティングを開き、入居者ごとの情報を書いたノートをもとに、要望などについて話し合わせ、それぞれの対応について意見を出し合っている。管理者も現場にいて、何かあった際の相談もしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価表、ストレスチェック表などを記入してもらい職場環境・条件の整備に努めている代表者との個人面談を設けるなど意見を伝える機会がある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、人柄ややる気を重視している年齢や性別による差別はしていない、職員は働くなかで、得意分野を生かして生き生きと働けるよう配置などに配慮している	長く勤める職員も多く、60を超え高齢でもチャレンジする方を受け入れている。男女の職員がおり、40～70代までと年代も幅広い。その分経験を積んで、入居者の気持ちを理解し行き届いたケアを行う。休憩時間も1時間、休憩場所もある。職員同士もコミュニケーションをとって協力しながら業務に取り組む。職員アンケートも取られている。それぞれ特技や資格を生かして調理やレク、マッサージなどをすることもある。	

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、利用者様の尊厳については、運営理念を毎日唱和して確認している	県の「明るい介護職場づくり」研修の中で、人権学習に関してのカリキュラムがあり、職員が参加、資料回覧、報告による伝達を行った。入居者の尊厳についても、運営理念の中で掲げ、日頃の実践に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への参加ができるように努力している力量についての把握を今後		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の特別養護老人ホームへ出向き、研修会に参加したり、隣の特別養護老人ホームの運営推進会議に相互に出席して勉強させてもらっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、こちらから出向き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人と面会し、要望を聴いている又、できるだけ本人にホームにも見学にきてもらっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、困り事、不安、要望を丁寧にお聴きしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合により、他のサービスを紹介したり、久留米市が発行している「高齢者支援パンフレット」をみてもらい説明したりしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に(家事)仕事をしたり、マンツーマンで散歩したり、外気浴、外出を共にする時間を共有し喜怒哀楽を共感している		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくり居室で過ごして頂けるよう配慮している、日頃の様子を伝えたり、ケアについて相談したり協力をお願いしたりしている		

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や、お店へ一緒に出かけたり、お寺へお参りに同行したり、知人へ電話をかけたり、手紙を出したりするお手伝いをしている	元々近くにお住いの方も多く、行きつけだった美容室に家族に連れてってもらったり、馴染みのスーパーに職員と行くこともある。市内のお寺参りをしたり、以前住んでいた自宅界隈に個別ケアでドライブで行くこともあった。知人や友人の訪問もあり、年賀状の発送支援も行う。身寄りのない方でも入居前の関係者が訪れており、それぞれの関係を継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士で食事が出来る様、食事の場所を配慮したり、レクレーションなども座席などを配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられた方の家にお参りに行ったり、家族のご様子を訪ねたりしている、退所後の家族がホームにボランティアに来て下さったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、「らしさシート」を記入してもらい、暮らし方、意向の把握に努めている	各ユニットの計画作成担当者がアセスメントを受け持っている。入居時には事業所独自の「らしさシート」に家族から記録してもらい生活歴や家庭環境などの情報を頂いている。アセスはプランと一緒に3～6か月で見直している。意思疎通が難しい方は、日頃の記録を見直す中で様子から読み取って、意向の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「らしさシート」にて、生活歴、馴染みの暮らし方生活環境、家族との関係性などの把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の希望は本人と職員皆で把握している、心身状態、有する力についてケアプラン作成時アセスメントしている、月1回のミーティングで確認し合っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は各担当、ユニットで課題を吸い上げ看護師、医師、ケアマネ、ユニットリーダー、本人、家族と意見を出し合い作成している	ケアプラン作成は主に計画作成担当者が行い、モニタリングの分担を介護職員に徐々に移行している。日々の介護記録の記入時に必ずプランを見ながら行うようにしており、目標Noを書くことで、プラン共有を図っている。プランの見直しは随時～6か月で行い、その際に担当者会議を開き、医師や看護師、家族からも意見を聞いて反映させている。	記録にプランNoが書かれていないこともあったので、見直すことで、さらに入居者ごとのプランの読み込みと実践につながっていくことが期待される。担当者会議録に他職種からの意見を取り入れているが、出席と意見照会が一体の記録になっていたため、それぞれがわかるように管理されることも望まれる。

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿を活用し日々の情報の共有に努めている月1回のミーティングにおいて担当スタッフがそれらの記録を確認し現状報告を行う事で介護計画の見直しに繋がっている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設のデイサービス、特養のイベントに参加したり、よかよか介護ボランティアの方の訪問でのレクリエーションの提案を受け入れたりしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に住まいのよかよか介護ボランティアの方に楽しみの提案などを頂いている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週往診して下さる、提携医のつむら診療所の先生が家族への連携を大事にされる為、報告、相談は迅速に行い、必要時の専門医への紹介状も迅速に頂き受診につなげている	元々のかかりつけ医も継続できるが、事業所の提携医に変える方が多い。他科受診の場合、協力が得られる際は基本は家族に支援してもらっている。提携医も協力的で、施設近くにもいるため、きめ細やかな診療対応をしてくれる。今年から薬剤師の管理指導も始め、パートの正看護師のほか、常勤の准看護師も2名おり、看護体制も行き届いている。提携医から入居紹介をもらうことも多く、連携体制は強い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきはその都度看護師につたえ、定期往診時に、介護職と共に医師へ伝えている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と病院の連携室と連携をとり、情報提供を速やかに行っている、退院時カンファレンスにも参加する場合もある		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援についての話をしている。医師から看取り時期についての方針を確認された時に家族に改めてお話している、方針が決まったら看取りプランを作成し、皆で共有し看取り体制をとっている、つむら先生の献身的な往診が皆の支えとなり、経験を積んでいる	入居時の説明と、重度化の際に改めて同意を得ている。提携医との協力のもと看取りまで支援しており、最近でも何名かの看取りを行った。職員も経験を積んできている。今年、関係機関でのターミナルケア研修があり、参加もした。提携医も協力的で、24h365日の対応があり、提携医との相談の元、希望があればできる限りの支援を行っていく方針である。	市や関係団体が行う外部研修の参加がなされることにも期待したい。

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に1回は救急時の対応についての研修を消防隊員に習っている実技も交えて習っている今後も繰り返し続けていく必要性を感じている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回総合避難訓練を行っている。夜間想定訓練も行っている	年2回、日中、夜間想定それぞれの訓練を行っており、消防署が立ち会うこともある。ユニットが独立した造りの為、今までは必要なかったが、今年の初めにスプリンクラーを設置した。備蓄物は水のみ。昨年から関連施設の救急救命訓練に参加するようになった。災害時対応に関する内部研修も行っている。	地域の方の訓練参加の呼びかけや、地域防災の情報収集がなされることが望まれる。また、近隣の福祉施設などと合同の防災訓練なども検討されてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守るケアについて、繰り返し勉強会でとりあげている	認知症高齢者の尊厳を守るケアの勉強会を行うほか、介護技術向上研修の外部研修でも学習する。年間計画で各月にテーマを定め、プライバシー保護に関しても内部研修を行った。トイレはカーテンで仕切っているが見えないように気を配っている。言葉遣いに関してはその都度指導も行う。	写真利用も含めた個人情報取り扱いの同意がとられることにも期待したい。また、プライバシーの在り方について、今後も話し合いがなされることが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望を伝えてもらえる信頼関係づくりを大事にしている自己決定できる環境を整え支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方の希望を本人、家族に聞いてできるだけ、個別支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んで着てもらっている、整髪は、2ヶ月に一回ホームでカットができるが、家族といきつけの美容室に行かれる方もいる		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、希望を聞きながら、職員が作成し、買い物と一緒に出かけたり、下ごしらえ食事、片付けも一緒に行っている(家事が好きな方と)	各ユニットで主菜、副菜を分担して、その日の調理担当が調理しており、品数も多く、バラエティ豊かなメニューを提供している。食材も事業所で買い物に行き、入居者と一緒にいくこともある。出来る人は下ごしらえや調理を行うこともあり、ボランティアの方が手伝ってくれることもある。誕生日にはその方の食べたいものを外食にお連れする支援もしている。花見や敬老の際には弁当を作って外で食べることもある。	

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談し、食事量、栄養、水分量の個別対応、状態把握をしている、食習慣など家族、本人から聞いて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科より、口腔ケアを受けている、その指導のもと毎食後支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレで排泄できるよう支援している、各個人の排泄パターンを把握している	ユニットごとの排泄チェック表があり、水分摂取とともに、排尿、排便それぞれの回数と時間を入居者の状態によって管理している。排泄状況によって適切な下着を提案し、夜間の尿量が多い方に大きめのパットを使ってもらい安眠につながることもあった。できる限りトイレでの排泄をしてもらっている。	排泄チェック表はあるが、書き方が統一されていないため、トイレ排泄か、パット内失禁かがわからないことがある。また、回数のチェックのみで時間がわからないこともあるので、様式を統一して、期間で見た改善提案ができるようになることが望まれる。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事量、水分量を把握し散歩や体操を促し予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日と時間帯は事業所側で決めているが、入浴を楽しめるように本人の好みの入浴の仕方などができるよう配慮している	ユニットによってタイル張りの広めの浴室と、ユニットバスに分かれる。基本的に個浴で対応するが、仲の良い人などで一緒に入ることもある。時間帯は昼からにしているが、今のところ特に希望されることもない。好みのシャンプーや入浴剤を使うこともある。皮膚観察の機会にも役立て、看護師に相談や報告も行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、状況により休息、睡眠がとれるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導をうけており、直接薬剤師より、指導を受け各個人の薬について把握する努力をしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、買い物、食器の片付け、散歩、外出などを行っている		

H27自己・外部評価表(GHコスモピア高良内)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、お寺へのお参りを職員が支援したり、家族が支援したりしている	年間の外出計画として、花見桜、文化センターなどにも出かけており、日ごろも散歩や買い物などに気候の良い日は頻繁に外出している。誕生月には本人の希望する外食に行くこともあり、個別ケアで対応している。2年前から個別ケアにも力をいれており、外出機会も増やした。家族に連れ出してもらって外出する方もいる。家族にも声掛けをしているが参加する方は少ない。拒まれる方には無理にせず、家族に協力してもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事で安心される事は理解しており、職員皆共有して認識している、お財布を自己管理してもらい、買い物に一緒に出かけお金を使う方もいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で、電話をしたり、手紙のやりとりをされる、郵便番号を調べたり、ポストに投函するなどの手伝いをしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような飾りつけや、花を飾ったりしている、音楽やテレビなどの音は好まれない方には迷惑とならない様に配慮している	各ユニットが独立した建物だが、それぞれホールを中心にして居室が隣接した造りは共通である。天井は高く開放的で、平屋建てのため日当たりも良い。テレビ周りのソファや、ダイニングテーブルで寛ぎ、スタッフルームもホールに面しているため見守りもしやすい。カラオケセットがあり、レクなどで入居者が歌を披露して楽しむこともあるという。駐車スペースも広いので、来訪も受けやすく、公園も隣接するため自然の移り変わりが身近に感じ取られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人や2～3人で掛けられるソファをとこどところに置き、時には、職員がそこで1対1で下肢のマッサージを行ったり、ゆっくり心配事の相談を聴いたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家具や寝具など自宅から持ってきてもらい、家族の写真などを飾って居心地よい空間づくりをしている	ホールはフローリング調の床張りで、居室内はカーペット敷きである。木製の介護ベッドが備え付けで、居室の表札にはかわいらしい飾りなども飾られて変化を持たせている。持ち込みも自由で、使い慣れた家具を持ち込んでそれぞれの部屋作りを楽しんでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている、手すりなど自立して移動したり、立ち上がりやすいように、ベッドの高さなど調節している		